

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成28年度第3回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	平成28年11月15日（火） 15：30 ～ 17：10		
開催場所	市役所4階 第1委員会室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 富士谷英正 教育長 日岡昇 教育長職務代理者 八耳哲也 教育委員会委員 高木敏弘 同 久家昌代 同 安倍映子</p> <p>◎職務により出席したもの</p> <p>総合政策部長 青木勝治 教育部長 江南仁一郎 教育部次長 野村正 教育総務課長 北村美栄子 学校給食センター長 奥田幹男 学校教育課 課長補佐 森 茂次 教育総務課副主幹 武田善雄 政策推進課 課長補佐 太田明文 政策推進課副主幹 夜野友昭 政策推進課主事 田中悠輔</p> <p>◎傍聴者 1名</p>		
次回開催予定日	未定（1月に開催予定）		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部政策推進課 夜野 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ <input type="checkbox"/> 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

司	会	1. 開会
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴の方へ遵守事項説明 ・ 会議時間の確認（1時間30分を目途に終了）
市	長	2. あいさつ
		<p>あいさつ（概要は以下の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議で、定期的を開催することとなり、今回はその3回目として開催させていただいた。 ・ 前回は、学力・学習状況調査の結果の公表について議論し、子どもにとってプラスとなり、子どもや保護者にとって励みとなる公表の方向性について確認した。 ・ 今回は、公表された内容の報告の後、当市のICT事業の方向性についての意見交換、教育振興基本計画の見直しについての考え方について報告する。
司	会	会議資料確認 → 議事を交替
		（議長の富士谷市長による議事進行）
市	長	3. 議題
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の議題確認
		①学力・学習状況調査集計結果について（報告）
事	務	①について説明
局		<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回、学力・学習状況調査の公表について意見交換を行い、その方向で公表していただいている。意見交換の内容については資料1をご確認いただきたい。 ・ 公表の内容について資料2に基づき、教育委員会から要点を報告していただく。
教育委員会事務局		資料2に基づき説明（概要は以下の通り）
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の意見交換により、方向性を示していただいたのでその方向で手続きを進めてきた。 ・ 公表は平成28年10月末にホームページにて行った。 ・ 前回平成27年度との違いを主に説明する。 ・ 全国及び県については、平均点数を公表しているの、それを示し、その課題と分析を加えた。 ・ グラフについては、会議でのご指摘通り、全て棒グラフで表示した。またグラフ中に矢印を加えた。これは、教育委員会の分析として心配しているところ（黄色矢印）、伸びているところ（青色矢印）を示した。 ・ 市として重点的な取組を掲載するとともに、市内で研究指定校等に指名されている学校及び主な取組を掲載した。 ・ 各校（小学校12校・中学校4校）の取組については、前回協議でのご指摘を踏まえて、重点的な取組だけでなく、これまでの成果と課題を含めて記載した。

市 長	各委員からの意見を求める
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常にわかりやすくまとまっている。 ・ 県内の市町すべてこのような方法で公表されているのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ この資料は市独自のものである、
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめの発想がとても良い。 ・ 学校ごとに課題を出してもらい分析できている。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の教育委員会での評価も高い。 ・ この方式を参考にしようと考えているようである。
委 員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値化する必要があるかと思っはいるが、数字は独り歩きしてしまう。 ・ グラフ表示は視覚に訴えるものであり、特に矢印による分析は効果的であると思う。
委 員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常にわかりやすい結果公表である。 ・ とある学校を訪問した際に、保護者とお話しする機会があった。 ・ ここでは、学校では個別に子ども別に結果を示しており、その結果を通じて親も一緒に家庭学習のあり方について考える機会となった。今回の公表は良い発信であったと思う。
委 員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親にとっても良い機会であったということだと思う。
委 員 D	<ul style="list-style-type: none"> ・ この調査は文科省が中心となった取組であるが、当市では学校・教育委員会・保護者が一体となって、当市として効果的なまとめをしてもらったと思っている。 ・ 平均点からの差が縮まっているのではないかと考えており、来年度の調査及びその結果が楽しみである。
市 長	本件については結果の報告のみであり、今回の公表は良い報告であったということでまとめさせていただく。
市 長	②小中学校における I C T 事業の方向性について（意見交換）
事 務 局	<p>②について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当市では、平成 21 年度から他市に先駆けて、電子黒板の導入など、I C T 教育に取り組んできた経過がある。 ・ 教育委員会では、教育大綱に掲げた「子どもの生き抜く力を育み、成長を支える」観点から、今後更なる充実を目指して取り組んでいく方向で検討している。 ・ このことから、整備に係る方針を検討されていることから、本日はその方針の内容について意見交換をお願いしたい。

- ・ 当市では、平成 21 年度から他市に先駆け、電子黒板とタブレットを試験的に授業へ導入している。
- ・ タブレットを用いた取組について事例を紹介する。

【映像により、現在の取組状況について報告】

資料 3 を中心に説明（資料 4,5 は補足資料）（概要は以下の通り）

- ・ 平成 21 年度から電子黒板・ノートパソコン・実物投影機を全校の普通教室に設置し、ICT 教育に取り組んできた。
- ・ ただ、全て有効に活用されてきたものではないこと、機器が老朽化してきたこと、また機器の発達による機器更新の必要があることから、平成 27 年度に市内 3 校（武佐小・桐原東小・八幡中）を研究指定校としてタブレットを導入した。
- ・ 先ほどの映像は、そのうちの 1 校である武佐小学校の様子を見ていただいた。
- ・ 先生と児童へのアンケートでは、ICT を活用した授業については肯定的な意見が多い。
- ・ これまでは、ノートパソコンの操作を先生が行う必要があったが、タブレットの導入により児童自ら操作することによる興味関心が高まったことや、先生が自席以外での電子黒板の操作が可能となったことにより、児童への指導が行いやすくなったことが考えられる。
- ・ 課題としては、より効果的に活用する為、機器操作だけでなく ICT の特性を見極めたうえで、先生が授業への道具として活用できる能力の習得が必要であると考えている。
- ・ これらを踏まえて、学校における ICT 教育を行うにあたっての環境整備を行うための方針と計画を策定し、計画的な整備を検討したいと考えており、みなさまへその方針・方向性について意見交換をいただきたい。
- ・ 事務局で考える方針については、以下の 3 点
 - ①いつでも・どこでも・誰でも 活用できること
 - ②シンプル な活用
 - ③学校間ネットワークによる連携強化
- ・ 特に、③については、システム導入や手法について課題は多いが、とある学校の優良事例をネットワーク導入により共有化することで、情報共有化による先生のスキルアップや負担軽減につながるものと考えている。
- ・ ICT 事業の今後の方向性について意見交換をいただき、方向性を確認したい。

市 長

ここまでの説明について各委員の質疑を求める。ICT 事業の整備方針、方向性について意見交換したいと思う。

市 長

- ・ 現在の電子黒板の使用頻度はどのくらいか。
- ・ 最初は低かったと思われる。

教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日あたりの活用時間は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ○小学校 高いところで2.4時間 低いところで1.1時間 ○中学校 高いところで1.9時間 低いところで1.6時間 くらいだと思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高いところと低いところの違いは何か。先生の指導方針によるものが大きいのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校、中学校で使い方は変わってくる。 ・ 中学校では教科ごとに先生が変わるので、科目によって活用できるところとできないところでは差が出てくる。 ・ 実技教科では現在使えないようになっているので、今後改善するべきであると考えている。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化について、使っていないのに年数だけが経過して使えなくなって更新だけする、ということではもったいない。
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここでの時間数というのは、6時間目まである間での「時間」なのか、1日の中での「時間」なのか、どちらを指すのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校であれば1時間=45分であるが、その時間数と考えていただきたい。 ・ ただ、実際にはその時間数以上に活用していることをご理解いただきたい。時間数は、先生からの申告に基づくものであるが、例えば実物投影機を活用した授業を行っても、時間数として申告しない方もいる。 ・ 本格的に活用するためには、デジタル教科書等を導入すればよいが、それには予算措置も必要となり検討が必要であるが、使える状況が限られている中で、現場では活用していただいている状況である。 ・ 教育委員会内部でも、整備・活用の部署が分かれており、連携ができていなかったが、本年度から毎月の利用頻度について共有化したうえで、前年度、前々年度実績と比較したグラフを学校現場へ渡している。このことにより、活用頻度は昨年度に比べて上昇している。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板等ICT教育について子ども達の間の話題になっているか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校では、「自分たちで使う」という方向になっている。 ・ これまでは先生が使うものとされてきたことを考えると変化はあると思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが先生に教えているということもありそうである。

委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桐原東小学校の授業参観で見せてもらったことがある。 ・ 子どもに聞くと、タブレットを活用することで、普段授業に集中できない子どもが、集中して取り組むことができているということであった。 ・ 体育の授業でも、映像を撮って見直すことで、なぜできなかったかということがわかりやすくなる。 ・ また、タブレットで書き込んだことが電子黒板に投影することができるため、集中して取り組むことが可能になると思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでは電子黒板がないとできなかったことでもタブレットがあれば可能となることもある。 ・ 先ほどの体育の話でも、その場で撮影して何が足りなかったのかを確認することができる。 ・ 電子黒板もタブレットも板書等と同じく授業に活用する道具の 1 つであり、先生が授業ごとの目的を達成させるための道具であることが必要である。つまり、先生個々の指導力に関わってくる。 ・ 取り組む意欲については、校長の意欲に関わってくる。校長が中心となり、夏季休業中に研修を行うことが必要であり、それが先生個々のスキルアップにつながる。 ・ 教育委員会としても、電子黒板等機材を渡すだけで終わっていたが、研修できる手だてなどを検討していく事が必要であると考えている。 ・ 一方で、先生も 20 代の先生がとても増えており、若い先生がきちっと板書ができているかなどの課題が多いことも事実である。 ・ このようなことから、どの道具を使うにしても先生個人の指導力が必要であると考えている。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットの導入は 3 校のみだが、実施していない学校との差が出るのではないかと。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味、関心を部分では差がでている。 ・ 指定は 3 校だけであるが、自分たちの学校でも実施したいという学校が出てきている。 ・ このようなことから、無償レンタルでタブレットを活用できる仕組みを活用して取り組んでいる学校もある。特に 20 代の先生に活用してもらっているところである。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 校はどのように指定したのか。手上げ方式だったか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手上げ方式で確認し、5 校が立候補した。 ・ どのような形で活用するかについては、立候補した 5 校にアピールしてもらい、結果的に今回の 3 校に絞った。 ・ 3 校には、これから市内全域の学校で広げていく意識を持って取り組んでもらっている。

市 長	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板導入時は、一度に全校へ配置したため、その活用については各校温度差があったように思う。 このようなことからタブレット導入にあたっては、やりたいと思う学校から導入するようになったと思う。 今、タブレット導入の話をすればどのくらいの学校から手が上がるのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> おそらく、全校上がるのではないかと思う。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 現在の導入は、レンタルか購入かどちらか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 最終的に市の所有となるリース方式で導入している。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 残る学校を全て導入しようと思うとどの程度の費用が必要となるのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 各校の電子黒板、基幹系の機器が古くなっており、ただ単にタブレットを導入すればよいというものではない。 全て導入しようということになると、現在の設備全てを更新する必要が出てくる。 入れ替えとはいうものの、全て新調するものと考えていただくほうがよい。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 導入にあたっては、リースか買取かどちらになるのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> どちらでも可能である。 概算だが、前回の整備で約4億3千万円の費用となっている。 今回の整備を全て行うとなると、おおよそ10億円程度必要ではないかと思われる。
委 員 D	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの映像を見ていると、研究指定校では、うまく使っているように思われる。 これまでの授業であれば、研究発表する場合は模造紙を使っていたが、その必要もなく、時間が短縮されている。 このような手法を全校に広げていくのに、約4億円必要だということか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今、使える設備は活用できると考えている。その場合、金額的には安くなると考えている。 ただ、一度導入したらずっと使えるものではなく、どこかのタイミングで更新しなければならなくなってくる。 このことを主眼に取り組まなければならないと考えている。
委 員 D	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの映像で、タブレットから自分のノートに書き写しているところがあった。この取組は非常に大事である。 機器に振り回されることなく、学習を自分のものにしようとしている良い取組である。

委員 D	<ul style="list-style-type: none"> 必要なことは、3校で取り組んでいる内容から始めることであると思うが、このような取組を広めることは、将来的な取組を考えたときにいわゆる無駄遣いになってしまうのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現在、学校にある設備の状況や、セキュリティ上の対策を考えると、現在3校で実施している取組をそのまま実施した場合は基幹系機器を入れ替える必要が出てくる。
市長	<ul style="list-style-type: none"> タブレットだけを各校に配る形だけではだめなのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> その通りである。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 現在の3校については、基幹系機器を入れ替えたのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 研究指定校ということで、タブレットが使えるための必要最低限の投資を行っただけであり、基幹系機器の更新は行っていないので他校と変わらない状況である。 そのようなことから、使用するにあたっての立ち上げに時間がかかるなど使い勝手という意味では現場に無理がかかっている状況である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 全校に広げようと思うと、財政的に、というよりも時間的に手間がかかるということか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 段階的な整備が必要であると思う。 いきなり児童・生徒に渡しても、現場が混乱してしまうことが考えられるので、まずは先生へ渡して使い方を浸透させることが必要であると考えている。 先生が、板書と同じくらいICT機器を活用できるよう能力が上がってきたら、児童・生徒へ配布する流れが最も良いのではないかと考えている。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 口頭だけではわからない。 スケジュールや費用の部分を明らかにしてもらわないと判断できない。 もし、するのであれば手上げ方式になるかと思う。いきなり10億もの費用を捻出することは難しい。 3校で実施している同程度の内容を行うためには、どのくらいの費用と期間に係るのかを教えてもらい、検討するのも一つの方法ではないかと思う。 この場合、機器導入の手法としてはリースになるのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> リースとなると、5～6年程度になると思われる。
市長	<ul style="list-style-type: none"> でも、ICT機器の導入は必要なことではないかと思う。

教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 参考までに金額を申し上げたが、やり方は数多くあり、どのような手法で行うかはよく検討しなければならない。
市長	<ul style="list-style-type: none"> では、よく検討いただきたい。 総合的に最も適切な方法を提案いただき、次回の総合教育会議にて提示してもらえらばどうか。 次回の予定はいつ頃か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 1月の予定であるが、検討結果を報告するのにどのくらいの時間がかかるかを確認する必要がある。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会にてなるべく早期にまとめてもらいたい。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> これまで多くの学校を見せてもらう中で、タブレット・電子黒板の活用で、子ども達が楽しそうに取り組んでいるのが印象的であった。子ども達の学習への喚起ということで活用できるのであればたとえ10億でも良いのではないかと思った。 また、タブレットは仲間とつなぐツールになると思った。それは先生がいかに効果的に使うかが必要になってくる。 子どもたちがタブレットを大事に使っている。物を大事にすることも指導であり、道徳教育にもつながる。 ある学校では通級指導教室の授業を見せていただいた時には、読み書き障がいをお持ちの子どもに有効に活用されていた。 今後は、試験にも家庭教育にも活用できれば良いかと思った。 誰もが使えるような手法を検討していただければと思う。
市長	<p>②のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育の必要性は、全員確認してもらえた。 ただ、多額の費用が必要となることから、まずは事務局で最短の時間、最小の費用でかつ最も効果的な方法を次回の第4回総合教育会議にて提案してもらう。 提案をもとに検討する。 子どもの向学心に変わりはない。自ら考え、判断する力を養ってもらうことが必要であり、将来的な問題解決力に繋がるものであると考える。 <p>以上のおおりに、まとめてよろしいでしょうか。</p>
全員	異議なし
市長	③教育振興基本計画の見直しについて（報告）
事務局	<p>③について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度が、教育振興基本計画の見直しの時期になる。 このことから、その見直しに関する進め方について教育委員会から説明していただく。

教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 説明の前に資料の修正依頼 資料 6 教育振興基本計画 策定時期 (誤) 平成 23 年 → (正) 平成 23 年度 (添付資料は修正済) このことについては、教育長から説明いただく。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 資料 6 をもとに説明する。 当市の教育振興基本計画は平成 23 年度に策定し、平成 24 年度から計画に基づき各種施策に取り組んできた。 本年度が中間年となり、課題点またこれからも継続して取り組むべき事項について検討したいと考えている。 見直しについては、中間評価委員会を設置し、教育長が委員会に諮問したうえで、委員会にて協議を行っていただく。 委員会の答申(2月の予定)をうけて、パブリックコメントを行い、教育委員会定例会にて決定する予定である。 策定結果については、市長や議会へ報告(3月の予定)する予定である。 見直しだけではなく、教育大綱との整合性を図っていきたいので、委員会へ諮問したい。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 見直しの内容等については中間評価委員会にゆだねることになるのか。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> その通りである。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 評価委員会のメンバーは決まっているのか。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 検討中であるが、現場の校長や、教育に携わっていた有識者、教育現場のOBなどを考えている。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 評価委員会の要綱などは策定したのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 要綱は策定済みであるが、委員会の構成についてはこれから検討する。
委 員 D	<ul style="list-style-type: none"> 昨年策定した教育大綱が、教育振興基本計画の上位に来るものになるため、大綱と計画をリンクさせたいと考えている。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさとに愛着と誇りをもち」の理念も抜けているので、計画に反映できるよう検討したい。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 本件については、このようなスケジュールで進めるということを確認しておく。
全 員	異議なし

市長	④その他
市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他みなさまからご意見があれば頂戴したい。 ・ 教育委員会から事業の報告がある。
委員	追加資料配布（追加資料 1,2）
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ お配りした資料は、教育委員からの提案事業として実施するものである。 ・ 八幡市内に勤務する教職員の中には、八幡のことを知らない先生がいる。このようなことから、先生方に八幡に触れていただく機会を設けた。 ・ どのようにふるさと教育を行っていくかについてのヒントを得てもらいたいと考えている。 ・ 先生方が直に八幡にふれていただき、感じてもらったことを子どもたちに返してもらおう。子どもたちがふるさと教育を通じて、八幡の良さを知り、将来八幡に帰ってきて役に立つ人材になってもらえるような取組の切り口にしたい。このような取組をリードしたい。 ・ 今回が第 1 回目である。今後、継続的に実施し年 2 回程度は開催したい。 ・ 今回は八幡学区で実施するが、安土学区や金田学区など学区を変えて実施したい。 ・ みなさまの協力をお願いしたい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校にふるさと担当の先生は 1 名いらっしゃるのか。
市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配置している。 ・ 委員から話がありましたとおり、この事業は教育大綱に併せた教育委員からの提案事業である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方には、実施後にどのように活用してもらうかがポイントである。 ・ これがスタートではあるが、最終的なゴールを見定めてもらって取り組んでもらう必要があるように思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう一手、取組や工夫が必要かもしれない。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように活かすかをみなさんで検討いただきたい。
市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう 1 点、確認させていただきたい。 ・ 次回の会議では、先ほどの ICT 教育について協議することになったが、もう 1 点、就学前教育について、保幼小の連携が大変重要になってくるが、当市では、現在の幼稚園が民間のこども園に移行されるということも聞き及んでいる。 ・ 教育委員の中には、幼稚園現場で活躍された方もおられる。このことから、就学前教育について、この会議の中で市長と意見交換をさせていただきたい。

市長

- ・ とてもいいことだと思います。
- ・ 今最も大事だと考えているのは、保護者のニーズである。
- ・ 保育園の志望でいうと、民間の保育所に集まっており、公立は定員割れしている状況である。このことについては、行政は一定の答えを出す必要があると思う。
- ・ 保護者には民間だけでなく公立を選んでいただく選択肢は残している。老蘇は、公立の認定こども園を整備する予定である。
- ・ 民間の保育所の先生は、児童を集める努力をされているが、公立ではそこまでの努力がないように思う。その差が、志望の差に表れていると思う。
- ・ 中学校でも、過去、私立中学校はあまりなかったが、近年では増加し、都市部では優位にあると思う。このことは、公立の学校に隙があると言わざるを得ないし、公立学校に勤める先生にはよく考えていただきたい。
- ・ 民間の努力を、公立はよく見つめなおす必要があると思う。
- ・ このようなことを次回の会議にて意見交換したいと思う。

市長

4. 閉会

- ・ 次回の日程について事務局から連絡。

事務局

- ・ 次回の会議日程については、年度当初の予定では、1月に実施する予定である。
- ・ 今回議題提案のあったICT教育と就学前教育について教育委員会事務局での提案をまとめた中で、日程を調整したいと考えるので、1月ないしは2月に開催したい。
- ・ 日程調整の上、通知する。

市長

閉会

終了 17時10分